

OCHIS、セミナー

中小企業の健康管理

事故起こさない予防を

NPO法人(特定非営利活動法人)ヘルスケアネットワーク(OCHIS、武田裕理事長、大阪大学名誉教授)は11月21日、「中小企業の健康管理を考える」な

送事業者がそれぞれ講演した。

全日本トラック協会の坂本克己最高顧問が「業界の発展のためにもドライバーの健康管理は必要不可欠だ。来年は20回目の開催となるが、このセミナーが長く開催できることを期待し



総括する武田理事長

ている」とおっしゃる。

第1部では、国土交通省物流・自動車局の鈴木健介安全政策課長が「健康起因事故防止に向けた取り組みについて」プロドライバーがいつまでも元気に誇りをもち働ける世の中を目指して、「全ト協の交通・環境

部の吉池明人調査役が「トラック運送事業者の現状と全ト協の健康支援」をテーマに、それぞれ講演した。また、スタンダード運輸の小林猛社長が「運輸ヘルスケアビジネスシステムの活用と中小企業の課題」をテーマに、自社の健康管理の方法を紹介した。

第2部では、OCHISの安島なつき保健師が「健診結果から探る、中小企業の健康状態と現状」、作本貞子副理事長は「何が中小企業の健康管理を難しくしているのか、その背景を考える」をテーマに、改善に向けた提案をそれぞれ行った。更に、大原記念労働科学研究所の酒井一博氏が「中小企業における安全と健康の示唆するところ」について説明した。

講演後、武田理事長は「事故を起こしたドライバーに対して、また同じような事故を起こさないための予防は必要。それに加えて、事故を起こさずうまくやっている人は、どんな理由でうまくいっているのかを考えることが、中小企業に求められる次のステップではないか」と総括した。

(中川美咲)